

医心 伝心

今夏は毛虫に異変あり

富山県医師会監事 佐藤 英敏

一昨年、昨年と自院における毛虫皮膚炎の発生動向について報告して参りましたので、今年の動向についても同様に報告したいと思います。3年前はチャドクガによる毛虫皮膚炎で来院された患者さんは140名でした。そして一昨年は258名と急増したので「チャドクガの当たり年？」と題して寄稿しました。さらに昨年は404名と30年近く開業して過去最高を記録しました。とくに6月と9月は100名を超える来院者数で、これは年2回孵化するチャドクガの幼虫（毛虫）の大量発生時期に重なったためと思われました。さて今年の4月から10月までの患者さんは、4月に3名、5月は4名と少なかったのですが、6月に入って109名と急激に増加したので、今年も昨年同様シーズン到来と期待？が膨らみました。しかし7月こそ67名と多めでしたが、8月は22名、9月に至っては僅か7名と全く拍子抜けの結果となりました。10月の1名を加えての総数は213名でした。

昨年の9月はあれ程多かった来院者数が、何故これほど減少したのかは今年の猛暑と関係がありそうです。氷見市における昨年の7、8月の日最高気温の平均は29.9℃でした。今年は31.3℃で昨年より1.4℃高いことで毛虫の数が減少したと思われれます。猛暑の年は毛虫被害が減少することが知られています。これは猛暑により毛虫が発達障害を起こしたと推測されます。毛虫は27℃を超えると発達障害を起こしやすくなると言われていま

す。そして、気温が上がれば上がるほど致死率が高まるとの研究報告もあります。

今年の記録的猛暑の影響で幼虫が小さい段階でダメージを受け、大量発生に至らなかったためと、その他の要因として7、8月は豪雨に見舞われ、また次々と発生した大型台風の影響も、どうやら9月の来院者数の激減につながったのだと考えられます。猛暑は熱中症など人間に悪影響を与える以上に、毛虫にも大ダメージを与えていたのだと分かり少々驚きました。

さて、猛暑で知られる群馬県の高崎市ではメスの性フェロモンを利用してオスの成虫（ガ）を捕獲するフェロモントラップを市内約100ヶ所に設置しています。猛暑の年は他の年に比べると捕獲数は6割程度に止まると報告しています。チャドクガの交尾が少なければ幼虫である毛虫も減少するので、今年の結果は当然の結果と納得した次第です。